

## アセアン・インド地域事務所(開設準備中)

### プレ AIRO<sup>1</sup> レポート 1

#### ～代替検疫施設はこんなところ～

#### 在バンコク事務所開設準備室

在バンコク事務所開設準備室の先遣隊2名(澤田・古田)が、1月22日(金)、日本を出発してタイ(バンコク)に入国しました。AIROが本格稼働するまでの間、不定期ではありますが、タイにおける見聞や雑感を綴ったレポート(プレ AIRO レポート)を出してまいります。

1回目となる今回は、先遣隊が入国直後に15泊16日間の隔離生活を過ごした代替検疫施設(ASQ; Alternative State Quarantine)についてです。

- タイ入国者は入国後15泊16日間の隔離生活を送らなければならない。先遣隊2名もタイ政府の指定を受けた ASQ であるホテルを日本で予約し、ガラガラの飛行機でスワンナプーム空港に到着した。
- 空港から ASQ までの移動に利用した車は、防護服らしきものを着用した運転手が運転し、プラスチックのシールドが運転席と後部座席を仕切る構造であった(写真1)。
- 車は ASQ に指定されているホテルの一般用入口ではなく、駐車場に到着し、荷物は全て念入りに消毒された(写真2)。また、チェックイン手続は駐車場で行った(写真3)。
- チェックインでは、通常のチェックイン手續に加え、病院から派遣されている看護師から問診を受けるとともに、1日2回の検温報告や ASQ 滞在中に2回実施される PCR 検査について説明を受けた。



写真1



写真2

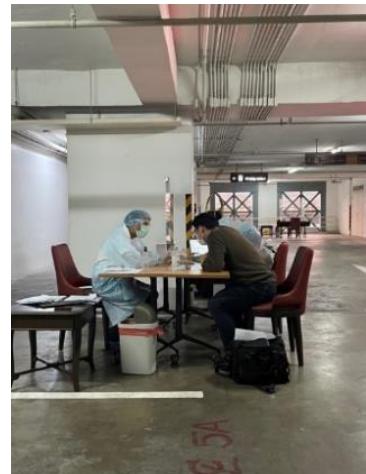


写真3

<sup>1</sup> AIRO とは、アセアン・インド地域事務所 (ASEAN-India Regional Office) の略称。

- 指定されたエレベーターで自室に移動。食事等の物のやり取りは従業員と隔離者が接触しないよう、部屋の前に設置された小机に食事等を置いていく形式となっていた(写真4)。また、部屋の中で出た全てのゴミは、“BIOHAZARD WASTE”と書かれたゴミ箱に入れなければならなかった(写真5)。
- 看護師への1日2回の検温結果報告も、食事の選択も、部屋のアメニティ物品の補充も、関係者との全てのやり取りは LINE で行うことが原則となっていた。
- 1回目の PCR 検査で陰性という結果が出るまでの約1週間は、部屋から一歩も外に出ることができず、この間が一番辛い時期であった。1回目の PCR 検査で陰性となった後は1日に45分だけ事前予約制でプールサイドに出ることができるようになった。
- 2回目の PCR 検査で陰性という結果が出れば ASQ 滞在もほぼ終了である。最終日、ASQ をチェックアウトする際に隔離終了証明書のようなものをもらい、晴れて自由の身となつたのであった。(もっとも、ASQ を出て予約している(普通の)ホテルまで、大量の荷物をどう運ぶかという問題が、この後すぐに発生するのであるが…。)



写真4



写真5

#### 【雑感】

- タイでは自国民を含めた国外からの入国者がコロナウイルスに感染しているとの前提で水際対策を実施しており、一定の成果をあげられているものと考えられる。
- ASQ 関係者と LINE でやり取りをすることに最初は戸惑ったが、慣れてくるとこれはこれで便利なものと思うようになった。タイ人の生活における LINE の浸透度は日本の比ではないのかもしれない。
- ASQ としてホテルを活用するというのは、国内におけるコロナウイルス感染症拡大防止策としても、ビジネス・観光需要の激減により低稼働率に悩むホテルの経営支援策としても有効なものであり、また、隔離される側にとってもホテルとしての一定水準の快適さの下に隔離期間を過ごすことができることから、複数のメリットを併せ持つなかなかいい方策と考えられる。

(以上)